

アナログ中年、 デジタルへの変節



東江一紀

デジタル化の波が、翻訳者の仕事場を押し浸しつつある。

ってこともないのだろうか。パソコンを使う人は、もうだいたい前から使っていて、使わない人は、いまだに関心すら示さない。

周りを見渡しても、なんだか、わたしひとりが騒いでいるような気がする。そのわたし

も、つい先日まで無関心派だった。

そりやまあ、Windows95の狂乱は気になりましたよ。気になったというより、眉をひそめて横目で見てたって感じでしょうか。

インターネットというやつも、知らぬ間に急速に肥大化してきて、その割に正体がなかなかつかめず、いかがわしいやら、うとましい

やら、けたたましいやら……。

いたいけな文系中年としては、少なからぬおびえと、反動的な嫌悪感と、ほのかな羨望を持って、遠くから巷の電腦騒ぎを眺めていたわけである。

そんなときに、九年間無事故無違反無遅刻無欠勤で働き続けてきた超タフな愛機キヤノワードα100が、突如「ぼけ」の徴候を見せ始めた。なんでもないとこでう〜んと考え込んだり、キーをたたいても反応しなかったりするのだ。

長年連れ添った伴侶が、急に意思の通じない別人格になったような……あ、いや、いや、へたなたとえを使うと、あとで夫婦間に亀裂が生じかねないから、やめとこう。

つまり、さしもの勤勉頑健ワープロも、機械としての寿命をまっとうしつつあるということ、ここはいそいそと新しい伴侶を、じやない、次世代の若くてびちびちした相方を、じやない、ちゃんと仕事のできる後継の執筆機械を探さなくてはならなくなった。

迷うよなあ。同じメーカーのワープロなら、操作を一から覚える必要がないから、移行によるロスも少ないだろう。どっさり仕事をかかえる身としては、そこがいちばん肝心だ。そのかわり、ワープロ専用機には、将来性も拡張性もない。

今まで横目で眺めていたパソコンのカタログや雑誌を、わたし、俄然縦目(?)で見えるようになった。同業の先輩ユーザーに助言を求めるようになった。この時点で、すでにパソコンのネットにからめ取られている。

とどめを刺すように、『パソコンなら仕事が2倍できる』などという本が出ました。十倍とか百倍とかいうんなら、眉につばをつけるけど、二倍だものね。おお、そうか、って気になる。話半分としても、一倍ですよ。あ、一倍じゃしょうがないか。でも、絶好調時のナリタブライアンの複勝馬券並みだ(だから、どうした?)。

面の皮の薄いわたしとしましては、まあ、二倍なんて欲張りなことは言わないから、現在の一・五倍ぐらい、いや、消費税を付けて一・五四五倍ぐらい仕事が進んでくれれば、投資する意味もあるかなあ、と、なんちゅうか、実に恬淡とした気持ちで、**パソコンを導入する決意を固めました!**

って、ちっとも恬淡としてないんですけどね、ははは。要するに、ワープロ専用機を買い替えるかわりに、思いきってパソコンを買い替えた、と。

Windows95は操作が簡単だぞという宣伝文句に、ほいほい釣られてしまった、と。

アナログ保守反動路線からデジタル時流迎合路線へ、ころっと寝返ってしまった、と。

きらびやかな電脳世界からやってきた厚化粧の悪魔に魂を売り渡してしまった、と。

ま、そのようなわけで、出所不明のうしろめたさを感じながら、おずおずとパソコンを使い始めてみたんですが、**どこが簡単なんだ!**

おじさんをおちよくってるのか! ワープロならびっぴつと二秒でできる作業が、ソフトを起ち上げて、ぐちゃぐちゃ設定をして、ファイルを開いて、と、延々三時間もかかる(そのうち三十分はマニュアルをめぐって、二時間二十八分は同じデスクトップ上で麻雀ゲームをやっているのだが)。

いざ執筆に取りかかっても、操作をちよつと間違えるごとに“ブツブツ”と警告音が鳴って、現場を押しえられた犯罪者の気分させられる。釈明のチャンスすら与えられない(与えられたとしても、どう釈明するというのか)。

保存を怠ったときに限って、ハングアツプしてしまい、プログラムの“強制終了”などという、まるでナチス・ドイツもどきの作業をさせられることになる。そして、打ち込んだデータはすべて電脳空間の藻くずと消え、泣きながらまた打ち直すのである(笑いなगर打ち直したりすると、それはもう、りつぱ

な別世界の人だろう)。

そんなこんなで、ワープロ専用機だったらやらなくてすむ仕事を、パソコンに替えると、たくさん、たくさんこなさなくてはいけなくなる。そう、**“パソコンなら仕事が2倍できる”**なんです。

もちろん、この場合の“できる”は、「今晚、いっしょに飲もうって約束してたけどさあ、急に仕事ができちゃって」と言うときの“できる”である。

ほんと、パソコンなら、仕事があとからあとから湧いてくるぞ! 一日じゅう机の前に座って、CPUの言いなりになって働き、それなのに、執筆は父としてはかどらず、母としかたづかない。

今月のこの原稿が遅れたのも、そういう深い事情があったからで、けっして**“麻雀武蔵”**や**“3Dピンボール”**などにうつつを抜かしていたからではありません。ご安心ください、編集部の皆さん。って、誰も安心してくれないだらうなあ。

パソコンは確かに、いろんなことができる。いろんなことができすぎて、それが本業を滞らせちゃうのである。本業のために導入したはずなのにね。仕事は一倍できればよろしい、と、今になって思います。

デジタルは及ばざるがごとし。